



岸田文雄衆議院議員と意見交換

2025年6月15日

[テーマ] ① 国会議員に対する会計知識の研修 ② 上場企業の会計報告の一本化

岸田文雄衆議院議員(自由民主党公認会計士制度振興議員連盟会長)と意見交換を行った。テーマは、①議員に対する会計知識の研修、②上場企業の会計報告の一本化である。出席役員からの質問に岸田議員は率直に考えを述べられた。

Q. 国家財政は「お金の配分であり」、適切な政策判断には会計的な視点が不可欠です。現在、国会議員に対して、会計や財政に関する勉強会は実施されていますか。

岸田議員 経済政策を巡って様々な議論

がされており、国会議員が会計知識を持つことは大事だと考えている。党の財政に関する再建本部、企業会計小委員会等においては勉強会を開き、基本的な知識を高めた上で議論しているが、国会ではそのような勉強は行っていないのではないかと。党内での勉強会はこれからも継続していく必要があり、公認会計士の先生に講師としていらっしゃっていただけるのであれば、より有意義なものであると考える。党の関係者と検討していきたい。

Q. 上場企業の会計報告は、会社法にも

とづく計算書類と、金融商品取引法にもとづく有価証券報告書の2種類が存在している。この二重の報告制度の将来的な一本化、また最近進展した有報の総会前開示について、どのようにお考えになりますか。

岸田議員 二重の報告制度による負担やコストの問題は、しっかり受け止めなくてはならない。一本化があるべき姿であると考えており、前向きに進めていきたい。有報の総会前開示は、実務を考えても対応可能であると考えていた。今回限定的ではあるが、金

融庁をはじめ関係者に努力いただいた。近いうちには実現可能であると考えている。

出席者： 岸田文雄 衆議院議員
石橋三千男 後援会会長
梶田 滋 後援会副会長
佐上芳春 政治連盟中国会会長
片山一俊 中国会次期会長
手塚正彦 政治連盟会長
秋山修一郎 政治連盟幹事長
茂木哲也 協会会長
南 成人 協会次期会長

※肩書きは意見交換開催時点のものです。

「公認会計士による岸田文雄後援会」総会及び懇談会を開催

中国地方会

2025年6月15日



6月15日、「公認会計士による岸田文雄後援会」総会及び懇談会が開催された。政治連盟から手塚正彦会長、秋山修一郎幹事長、協会から茂木哲也会長、南成人次期会長ら総勢40名が参加した。

後援会を立ち上げた石橋三千男後援会会長より、「岸田先生のお人柄は後援会で接する時もテレビで拝見する姿も全く一緒で、常に誠実でコツコツきちんと積み上げ

ていらっしゃる。広島では『岸田さん、よーやったの』とみんなから評価されており私も非常に嬉しい」と親しみ感溢れるご挨拶があった。

手塚政連会長、茂木協会会長からは有価証券報告書の総会前開示について、岸田議員が当時首相であった昨年4月に先鞭をつけてくださったこと、そしてこの3月からは議連会長という立場で推進していた

だいたことにより、3月決算の上場企業の6割が総会前開示をするという急展開があったことに対して深くお礼を申し上げた。南協会次期会長は「ここからがスタートだ」として、より良い日本経済のためにさらなる制度設計を一緒に考えていただきたいと呼びかけられた。

岸田議員からは、「経済の復活を目指して推進した企業価値向上のためのコーポ

レートガバナンス改革において、公認会計士の力強いサポートがあった」とお言葉をいただいた。さらに、「公認会計士がより意欲を持って前向きに仕事ができるような環境整備に力を入れていきたい、公認会計士制度をめぐる課題についても政治が決断しなければなかなか前に進まない課題も多いので、思い切った決断ができる政治を取り戻していきたい」と語られた。

仕事とファッション

お二人の出会いは通商産業省(現経済産業省)。山田美樹さんは大学卒業後入省され、片倉正美さんは新日本監査法人からの出向でした。それから約20年来のご友人で、現在は政治家とEY新日本有限責任監査法人の理事長というお立場です。そんなお二人の共通の悩みが、黄色い服。話題はここからスタートしました。



前衆議院議員

山田美樹

EY 新日本有限責任監査法人 理事長

片倉正美



なぜ黄色い服?

片倉 今日も素敵な黄色の服をお召しになっていらっしゃいますが、黄色ってなかなか売っていないですね。

山田 マネキンが黄色い服を着ていたなら、脱がして買っています。

片倉 私もEYのコーポレートカラーが黄色ですから黄色い服を着る機会が多いのですが、探しに探して、それで同僚に「よくこんな色見つけたね」と呆られます(笑)。山田先生はなぜ黄色をご自身の色に決めたのですか?

山田 選挙では目立つ信号カラーの赤・青・黄が好まれます。私は実はブルーが好きなのですが、対立候補と被ること、赤は既に使っている方も多いため、消去法で黄色になりました。最近では黄色は自己主張が適

度でいいかなと思っています。

片倉 黄色は元気になる色ですよ。

ファッションはツールかスタイルか

片倉 山田先生は通産省からコンサルティング会社、エルメス、衆議院議員と仕事を変えられファッションに変化はありましたか?

山田 通産省は、私の頃はまだ女性が少なく何を着てもいい感じでした。それがコンサル会社に移ると、ダークスーツにカバンも黒しかダメと言われ真っ黒な生活をしていました。その後エルメスに転職して黒のスーツで初入社したら、監査の人が来たと言われました(笑)。政治の世界に入ってから、顔と名前を覚えてもらうためにとにかく『黄色』です。

片倉 山田先生にとって黄色の服はまさにツールですね。私は、2019年に理事長に就任したとき初めてイ

メージコンサルタントのレクチャーを受けました。そこで言われたのは、「色は紺、黒、グレーの3色」。それで初期の頃は地味な色でしたが、コロナ禍になって誰かとお会いするのが貴重になると、もう好きなものを着ようと思いました。そこで考えたのは、いかに自分を知ってもらおうかと、相手のことをよく考えること。例えばクライアントのコーポレートカラーを尊重して青や赤の服を着たり、お祝いのパーティーでは華やかな色の服を着て祝福の気持ちを表します。ですから、私もファッションは基本的にはツールであり、でも着ていて楽しめるところがスタイルかなと思います。

なぜ日本ではブランドが生まれないのか

片倉 日本は手頃な値段の洋服があって有難いです

が、一方で、なぜラグジュアリーブランドが生まれないのかなと思います。

山田 ラグジュアリー業界で働いて分かったことは、ヨーロッパのブランドはとてもしたたかです。日本の質の高い布地が材料として使われていることも多いのですが、日本の名前は表に出ません。これは本当に悔しいです。日本の工場と違ってのんびり仕事をしているのに、製品はすごい利幅で売っている。それでいて「ブランドではありません。文化なのです」というわけです。日本人は、「良いものを安く」が哲学ですが、考えを変えないといけません。ブランド価値を高めて効率よく稼がないと日本は負けてしまいます。日本でラグジュアリーブランドができない理由は4つ挙げられます。1つは各省庁が縦割りである機能がない。2つ目は単品が多い。3つ目はラグジュアリーの基準がない。4つ目が一番本質的だと思いますが、国が支援しようとしても、高額品ビジネスに税金を使う理解が得られない。フランスは国策として取り組んでいます。

片倉 フランスでは文化が経済的にも国を豊かにすることがよく理解されているんですね。

サステナブルファッションの大切さ

山田 小泉進次郎先生からお声がけいただいて、サス

テナブルファッションに取り組み始めました。あまり知られていませんが、洋服はものすごく環境負荷が大きいのです。例えばTシャツ1枚作るのにペットボトル255本分のCO2排出、水も風呂桶11杯分を使用します。英仏では政府がアパレルの廃棄を厳しく規制していますし、欧州のブランド企業はRE100やTCFDを掲げており、火力発電で稼働している日本の工場で製造した素材は、将来締め出されるかもしれません。日本も対策を考えなくては行けないと提言を行いました。

その後、環境副大臣の仕事をいただき、技術開発支援や普及啓発に取り組みました。例えば、この青いワンピースはペットボトルから作った糸で作られています。これをG7札幌環境サミットで披露したらすごく評判で、このサミットでは「廃棄物の発生を大幅に削減していこう」と共同声明に盛り込まれました。

いま環境省では、バリューチェーン全体でのCO2排出量を計算する仕組みの整備や、資源循環におけるTCFDやTNFDのような情報開示の枠組み作りを推進しています。



山田先生にお持ちいただいたCFCLのワンピース

片倉 開示スキームが出てくると、私たち会計士はビジネスモードになります(笑)。最後に、これからどのようなファッションをしていきたいですか?

山田 私は黄色を着ないといけなないのが嫌で、実は窮屈な生活を送ってきました。今思うのは、そんな自分はハッピーに見えるだろうかということです。幸せは人に伝わりますので、これからは自分が着て楽しい服を取り入れて

いこうと思っています。

片倉 いいですね。私も信頼感と自分らしさを大切にしながら、少しカジュアルにしていきたいと思っています。では皆様も自分の好きなものを身につけて、幸せの一步を踏み出してください。山田先生、本日はありがとうございました。

山田美樹 (前衆議院議員)

1974年東京都生まれ。東京大学法学部卒、コロンビア大学経営学修士(MBA)。通商産業省、内閣官房を経て、ポストコンサルティンググループ、エルメスジャパンに勤務。第46回衆議院選で初当選、以降4期にわたり衆議院議員を務める。自由民主党副幹事長、環境副大臣、自由民主党法務部会長、外務大臣政務官を歴任した。

※肩書は対談開催時点のものです。

